



立川車掌区分会より 要請書を受け取る!!

東日本旅客鉄道労働組合
八王子地方本部
執行委員長 金井正明 殿

東日本旅客鉄道労働組合
八王子地方本部立川支部
立川車掌区分会
執行委員長 端山 健司

要請書

18春闘以降、会社からの不当労働行為、マスコミによる組織混乱を招く報道により、多くの組合員が脱退し、現在も不安を抱えている組合員がいます。こうした中で、会社は生産性向上に向けた施策を一気に推し進めようとしています。乗務員勤務制度の見直し、委託駅の拡大、設備メンテナンスのさらなる効率化と、矢継ぎ早に労使議論を強行し、合意に至らなくても実施するという姿勢です。4万人体制を見据えた会社の意思が全面に表れていると言っても過言ではありません。

職場では、社員管理が強められ、事象に関わらず何かやったら乗務を外し日勤教育という状況になっています。特に、苦情を基にした社員の接遇を巡り、暴言を吐いたとし、当分会組合員が約1か月乗務を外され、日勤勤務が指定されています。安全に関わる必要な教育について、全て否定するつもりはありません。しかし、今回の事象については、安全に関するのではなく、接遇に関するものであり、乗務を外すという事で反省を促しても教育にはならないと感じます。さらに言えば、当該組合員が感情的になったのは、相手から体をぶつけられたこと、酔客であったことなど、経過が見られず結果のみを問題にしています。そもそも本人は感情的になってしまった点があったことを認めています。こうした経過や背景を見ていない為、変形で行われているのは読書や机上での「サービスとは」「お客さま心理とは」といったものであり、精神論的なものばかりで、責任追及により乗務を外しているため、教育と言えるものではありません。

この件に限らず、乗務を外され変形日勤が指定される事態が続いています。懲罰的日勤教育は、JR西日本の企業体質でも問題視されたように、福知山線脱線事故のように、精神的プレッシャーから安全を脅かす事態につながりかねないため、行うべきではないというのが分会の見解です。

このような会社の姿勢は一職場における問題では無いと考えます。よって、八王子支社に対し、今の状況と今後の展望について会社見解を明確にさせ、回答させることを、八王子地方本部に強く要請致します。

安全・健康・ゆとり・働きがいある職場を取り戻すために、最先頭でたたかひをつくりだします。

会社に早急に求める4点について

1. 当該組合員が乗務を外されるに至った経緯と、外す判断をした根拠を示すこと。
2. 多くの組合員が日勤教育に対して不安を感じていることから、
情報の共有として詳細を周知すること。
3. 懲罰的日勤教育は、福知山線脱線事故でも問題視されたように、今後は行わないこと。
4. 当該組合員を直ちに乗務に復帰させること。

早急に迫るため、緊急団体交渉の申し入れを立川車掌区分会は求めます。

2018年10月30日

懲罰的“乗務停止・日勤教育”では 鉄道の安全は守れない!!

立川車掌区において、常軌を逸した乗務停止処分が行われています。

処分に至った経緯は

- ①武蔵小金井駅所定下り中継での待避の際に到着放送がなかった。
- ②そのため多くの旅客が転倒した。(旅客申告)
- ③当該旅客と対応した際の態度・発言としています。

ポイント通過時の注意喚起放送が指導・整備されていない問題を棚に上げて本人の対応・態度のみに責任を切り捨てる教育方法は明らかでない誤りです。また、苦情申告した旅客の側の暴言や暴力的な態度には一切触れられていません。そもそも乗務を停止し再教育する本来の目的は知識・技能等、安全上重大な事象を越えしかならない要因の特定と克服にあります。旅客と対応した際の態度に問題があった事は本人も認め、真摯に反省をしていることから、直ちに乗務を停止し日勤教育を行なう目的は他に

あるのではないのでしょうか。
**責任追及は安全風土を崩壊させる！
職場に無用な混乱・動揺を招き込む
懲罰的日勤教育は直ちに止める!!**

立川車掌区分会 NEWS

社員を守る視点
がない！乗務を
外す必要なし！

今月に入り、●●●さんが乗務を外されています。理由は10月25日に発生したお客様への暴言、言葉が不通であったとされています。

暴言の中身は、武蔵小金井駅下り列車に遅延があったこと、そのことで多くの人が転倒したとあり、その上で、態度や発言についての謝罪がなされています。●●●さん自身、その事について口は認めています。現在も必要な教育を理由に乗務を外されています。しかも本人に通告することなく、勤務を安易に変更して、教育のためなど、後付けでいわれています。そもそも、そもそも暴言があったのであれば、二重三重に謝罪と謝罪のお願いを繰り返す必要はないと思います。実際に日勤教育は、顧客の立場やルール・プレイングなどを行っているようですが、乗務を外す、乗務の中で乗務すればいいことではありません。謝罪が何もないままに懲罰的日勤教育が行われています。

安全な鉄道輸送を確保するため、
会社は懲罰的日勤教育を直ちにやめ、
再発防止に向けた原因究明のできる
職場風土を創造する努力をすべきだ

八王子地本は要請を受け止め、 分会と共に闘いを創り出します!